

令和 6 年度大淀幼稚園学校自己評価結果公表シート

1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的な運動能力の発達を図り、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

2、本年度重点的に取り組む目標

認定こども園への移行を検討するにあたり情報の収集に努める。同時に認定こども園においては幼稚園よりも多様な子どもへの対応が期待されるであろうことから保育の質について多様な視点から検討する。園の指導方針について意思統一を図るために十分な園内研修を行う。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) 保育の 5 領域を偏らずに行い、時流に流されない、幼稚園本来の幼稚園らしい保育を行い。総合活動等により楽しく伸びやかな当園らしさに重点を置いた取り組みを行った。また、サークルタイムを様々な保育の取り組みの中で行い、自ら考え学ぶ姿勢を育む活動を行った。
2) 教職員個々の資質を高める取り組み	2) 外部講師を招いての研修。マナーに関す

3) 子どもたちの情報の共有	る研修を行った。 3) 昨今の減少として保護者同士の情報の共有が希薄で、親子ともども孤立する状況がみられる。電話などでできるだけこまめに情報をとり、必要に応じて学年、全園で情報を共有した。
4) 子どもたちの自発性や知力を高める取り組み	4) 積極的にサークルタイムを導入しクラスやグループごとの話し合いを行った。指導者はファシリテーターをして見通しを持ちながらも過度に介入しないように注意して取り組んだ。 図鑑やインターネットなどの ICT 機器も積極的に導入した。
5) 保護者との連携	5) 個々の園児についてこまめにやり取りをし子どもの育ちについて共通理解ができるように努めた。
6) 防犯対策	6) 防犯訓練は職員間で年に複数回行い防犯意識とともに実践的な対応も意識して行った。 子どもたちにも積極的に話して意識を高めた。 7) 園内の遊具の安全点検を複数回行った。

7) 施設の安全対策	8) 登降園や預かり保育等の園児管理に「brain」を導入し、指導要録も電算化して教員の負担軽減を図った。
8) ICT 化の試み	9) 令和 8 年度あるいは令和 9 年度に認定こども園への移行を検討している。そのための情報収集と教職員及び園児保護者来年度新入園児保護者への説明を行う。
9) 認定こども園への移行に向けて	

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

総合活動やサークルタイムの活動によって幼児期に特徴的で大切な遊びを通した伸びやかな育ちと学校教育に向けてそれに対応できる能力を深める教育を行った。一定の成果は出ているように感じる。

子どもに限らず教職員同士も互いに肯定的に評価して教職員の自己肯定感やチームワークを醸成するようにした。職員間でまとまりがみられていると思う。

5、今後取り組むべき課題

認定こども園化を進めるにあたって嬢王収集と引き続き幼児期の育ちと小学校以降の学校教育に結び付く活動との整合性を見出すこと。

6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められる。

7、学校関係者評価

学校関係者評価・主な意見

・「楽しくなければ幼稚園ではない。でもそれだけでは教育ではない」という教育目標に向けて努力している様うかがえた。子どもは楽しく通園している。安心して子どもを預けられる環境だと思う。

・若い先生が多く活気がある。半面、バランスからいうともう少し経験のある先生がいた方がよいかもしれない。人材の確保が難しいのは理解しています。

・両園ともに安全面では十分な監視カメラの設置、施錠など対策が組まれている。

・園の方針もあり良し悪しではないが、預かり保育の時間が少し短いように感じる。

・財務などの運営面は適切であり、特に指摘すべき事項はありません。